

日本経営工学会 (JIMA) 研究発表大会シンポジウム概要  
(2021年5月15日 10:15~12:00 オンライン実施)

テーマ：アグリ 2 フード (A2F) ・バリューチェーンへの経営工学の展開に向けて

概要：

農業 6 次産業化が本格的に進みつつあります。農産物が食品となって消費者の口に入るまでには、様々なバリューチェーンが展開されています。これをアグリ 2 フード (A2F) ・バリューチェーンと名付けるならば、このバリューチェーン上には農業を支えるサプライヤーから農業、食品加工業、流通・小売業そして飲食業といった様々なプレーヤーが多様な組合せで価値創造に関与しています。現在の農業 6 次産業化はデジタルトランスフォーメーション(DX)が主役となって進行しています。様々な情報・通信技術が駆使され、これまでにない農業経営技術ノウハウが開発されつつあります。

一方、経営工学は 20 世紀初頭に生産管理・品質管理・原価管理を中心に工場経営の場において誕生し、生産性向上や経営技術の開発に寄与してきました。そして製造業で培われた経営工学の知見ノウハウは現在、流通業、小売業、サービス業等へとその応用範囲を広げ、人々の QoL を高め社会発展に貢献しています。今後、私たち経営工学を研究・実践する者にとっては、これまで他の産業分野で培ってきた多様な経営技術を農業 6 次産業化、A2F バリューチェーンに応用展開できる大きな潮流が来ていると捉えるべきではないでしょうか。

このシンポジウムでは農業 6 次産業化という課題を農業からフードまでのアグリ 2 フード (A2F) バリューチェーンとして取り上げます。そして農業 6 次産業化に関する個々の事業に焦点を当てるだけでなく、バリューチェーン全体を俯瞰しつつ、個別事業や個別経営機能の最適化、あるいは、バリューチェーンの一部あるいは全体の最適性を検討する視点について、参加者の皆さまとともに農業 6 次産業化の現場の最新情報を共有したいと思います。

基調講演として、今、農業 6 次産業化において A2F バリューチェーンが農業者、地域、企業、行政等を巻き込み、DX 等のキーワードの下にどのようなビッグピクチャーで展開しつつあるのかを解説して頂きます。

次にパネルディスカッションでは、まず 3 名の方から

- ① 先端的な農業法人の方からは、DX 技術や自動化技術等の導入状況をご紹介いただきながら、農業事業改革へ理念や具体化の方向性をどう考え実行しているか
- ② DX 技術や自動化技術等を A2F バリューチェーンに提供している企業の方からは、新技術の活用状況と経営にもたらす革新的影響や今後の動向がどうであるか
- ③ A2F バリューチェーン構築のコンサルタントの方からは、代表的な先進事例をご紹介いただきながら、俯瞰的な視点な立場からの今後の方向性や可能性はどう見るか

をそれぞれの専門的なお立場から 15 分ずつのプレゼンテーションでご紹介いただきます。その上で基調講演者を交えた 4 名でディスカッションをしていただき、これからの DX 等を活用した農業 6 次産業化がどのように進んでいくのか、課題にはどのようなことがあるのかをあぶり出していただきます。

これによって私たち経営工学を研究・実践する者が専門とする知見を駆使して、農業 6 次産業化を対象とした研究テーマを設定する際の貴重なヒントが得られるようにしたいと考えております。

以上